【実施区域・面積】

滋賀県、　3.46ha

【生態系タイプ】

里山林、河川・湖沼、水田

【実施区域の状況】

申請区域のある上山地区では、古く推古朝の時代から、「湖東の小叡」と呼ばれた古刹百済寺の寺内地として、農林業を中心とした集落が形成され、日本の原風景である農村・里山景観が維持されてきた。当サイト内においては、絶滅危惧種のカワバタモロコが生息し、ジュンサイやフトヒルムシロが生育するため池が現存するほか、絶滅危惧種であるニホンイシガメやナゴヤダルマガエル（環境省レッドリスト2020）の他、ヤマアカガエルやトノサマガエルなど、滋賀県内で減少している両生類の生息が確認されている。しかしながら、これらのため池や里山林は、燃料革命による生活様式の変化により管理が十分ではなく、このままでは固有の生態系が喪失するそれがある。

【目標】

「おわん池」「秦溜」および周辺の里山林と中心とした絶滅危惧種が生息・生育する豊かな里山環境の保全と次世代への継承を図るため、地域自治会組織及び住民、地元小学校や事業者等と連携し、保全・調査活動を行う。 具体的活動計画については、当面10年間を見据えたロードマップを策定する。

【主な活動内容】

年間を通じて、特に絶滅が危惧される鳥類、魚類、爬虫類、両生類、昆虫類、維管束植物等については、目視や捕獲等による定期的な調査を実施する。調査に当たっては、これまで地元小学校の農業体験や自然環境学習と連携し、定例活動化することで、次代の人材育成を併せて図りたいと考えている。また、カワバタモロコ等、特に種の維持が必要とされる動植物については、近隣企業、事業所等におけるCSR事業等とも連携を図りながら、近接する休耕田や里山を活用し、個体数の維持確保を図る取組を行う。併せて、ため池の管理不足に伴う護岸の崩落等への対応については必要な長寿命化対策を検討していく。保全・活動基本計画については、東近江市環境基本計画に準拠した10年間を1期とする保全・活動基本計画を策定する予定である。

【モニタリング計画】

①対象　鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、維管束植物、魚類、水生昆虫類　等

②調査方法

鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、維管束植物（植生）については、ルートセンサス法による目視調査を基本とする。

魚類、水生昆虫類については、専門家による捕獲調査を中心に実施する。

鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、維管束植物（植生）については、四季調査（年4回程度実）を基本とし、可能な場合、専門家等を招聘した追加調査や環境学習を実施する。

【実施体制】

上山町神明里山ともいきの会を中心に、地域住民、農業関係者、地元愛東北小学校児童、賛同企業社等により実施。
魚類及び水生昆虫（一部の両生類も含む。）については、滋賀県立琵琶湖博物館の鈴木規慈氏の協力を得て実施。









【計画期間】

2025年9月～2030年9月